

令和4年度 歯・口の実態調査(中1、高1)について

1 はじめに

口腔衛生委員会の所掌事項は、「幼児・児童生徒の口腔疾患の実態と問題点を把握しその対策を図る」となっている。今年度はその所掌事項の基礎となる8回目の実態調査を平成12・16・19・22・25・28・令和元年度に引き続き行った。今回も岐阜県内の中学1年生、高校1年生の口腔状態について考察を行ったので報告する。今後とも定期的に調査を行うことによって、岐阜県の児童生徒の実態把握ができるだけでなく、日頃の歯科保健活動実践に対する評価に役立つものとする。

2 調査対象

岐阜県内の公立学校および私立学校に通う中学1年生14,445名(男子7,372名、女子7,073名)、公立学校および私立学校に通う高校1年生17,091名(男子8,533名、女子8,558名)、特別支援学校に通う中等部1年生168名、高等部1年生371名を対象に調査した。

	枚数	回答数	回答率	男子人数	女子人数	合計人数
公立	176	176	100%	7,178	6,815	13,993
私立	8	7	87.50%	194	258	452
特支	18	18	100%	109	59	168

【表1】中学1年生 データ数

	枚数	回答数	回答率	男子人数	女子人数	合計人数
公立	77	77	100%	6,516	6,285	12,801
私立	18	16	88.89%	2,017	2,273	4,290
特支	22	22	100%	240	131	371

【表2】高校1年生 データ数

3 調査方法

岐阜県学校保健会より、岐阜県内の公立中学校、公立高等学校、特別支援学校、私立学校に対してアンケート用紙を送付し、各学校にて記入後返送するという方法でアンケートを実施した。

アンケートは、岐阜県学校保健会にてデータ処理を行い、岐阜県歯科医師会にて考察を加えた。

4 結果と考察

岐阜県健康増進計画「第3次ヘルスプランぎふ21」(平成30年度から令和5年度の6年間を計画期間とする)では、生涯を通じた健康づくりの推進(ライフステージに応じた取り組み)を図り、県民が乳幼児期から高齢期まで健康で生き生きと生活するために、それぞれのライフステージにおける課題に取り組むものである。指標項目として「12歳児の一人平均う歯数」の目標値を0.5歯以下とし、「12歳児で歯肉に炎症所見のある児童」の目標値を20%以下としている。

今年度は、「第3次ヘルスプランぎふ21」の目標への考察と、平成31年(令和元年度)より発生した新型コロナウイルス感染症による環境の大きな変化がどのように影響しているか見ていく必要があると思われる。

今回の予想としては、令和元年から蔓延している新型コロナウイルス感染症による影響により、学校での歯みがきや他の歯科保健活動の中止などの影響が大きく反映すると思われる。しかし、令和4年度になり歯科保健活動の再開も多くなってきたことによる影響からか、過去からみてもDMFT値において改善傾向がみられ、中学1年生においては、「第3次ヘルスプランぎふ21」の目標値0.5歯以下を達成した結果となった。高校1年生においては、引き続き減少傾向になるようにさらなる努力を期待したい。

※DMFT値について

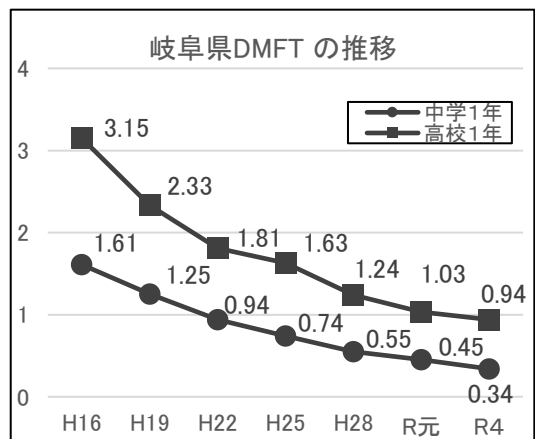
う蝕の罹患状況を表す指標のひとつで、自然治癒の方向をもたないう蝕を、経験と言う概念であらわしたものである。永久歯の一人平均う蝕経験歯数をあらわし、地域、国際比較に用いられる。

D: Decayed teeth (未処置う蝕の永久歯)

M: Missing teeth (う蝕により喪失した永久歯)

F: Filled teeth (う蝕により処置された永久歯)

DMFT=各人のDMFの合計/被検査者数



【表3】岐阜県DMFTの推移

【中学1年生(12歳児)について】

年次推移では、前回調査(R1)より岐阜県全体は0.11ポイントの減少、地域別で改善率が最も高いのは、岐阜市周辺地区の0.20%の減少であった。【表4】

地域別では、岐阜市で0.27の最小値を示し、最大値は東濃地区の0.53となっている。【表6】

【高校1年生について】

県全体のDMFT値は、中学1年生の0.34ポイントから0.6ポイント上昇し、0.94となっているが、過去の調査と比較すると減少傾向となっている。【表5】

地域別では、中濃地区が2.04で一番高く、最小値は、岐阜市及び周辺地区が0.59となっている。このような地域差は以前より課題となっている。【表7】

また、昼食後の歯みがきについては、前回と大きく変化はなく、実施している学校が115校中22校(一部実施が41校)だった。フッ化物洗口を実施している学校は、コロナ禍の影響か3校から1校へ減少した。

コロナ禍による各学校の考え方も大きいと思われるが、引き続き高等学校における今後の歯科保健活動の回復動向を見守りたい。

【特別支援学校について】

高等部1年生のDMFT値は、H28年度の1.29から令和元年度1.52と増加傾向だったが、今年度は0.72と減少しており、コロナ禍にもかかわらず、学校関係者の並々ならぬ努力の様子が伺える。

【私立学校について】

DMFT値は、中学1年生が0.21、高校1年生が0.64と公立学校よりも少ない値を示した。

公立学校、私立学校、特別支援学校いずれのデータも女子の方が男子より高値を示したが、その理由として永久歯の萌出に関して、女子の方が早い傾向があるためではないかと思われる。小学校低学年または幼稚園、保育園での歯科保健の充実がより望まれるところである。

今回地域別のデータ分析を行ったが、市町村のデータ格差、各学校のデータ格差、学校内での家庭の格差が心配される。また、コロナ禍における学校での対応の格差も影響している背景も考えられるため、今後の学校歯科保健の取組の事後措置において、ポピュレーションアプローチのみではなく、ハイリスクアプローチの必要性がより重要だとと思われる。

年度 地域	H16	H19	H22	H25	H28	R1	R4
岐阜市	1.46	1.28	0.86	0.77	0.64	0.45	0.27
岐阜市周辺	1.76	1.18	1.07	0.68	0.51	0.50	0.30
西濃地区	1.61	1.38	1.05	0.87	0.56	0.47	0.34
中濃地区	1.88	1.46	0.86	0.68	0.5	0.37	0.30
東濃地区	1.22	0.98	0.8	0.66	0.51	0.47	0.53
飛騨地区	1.84	1.31	0.97	0.75	0.55	0.47	0.38
岐阜県全体	1.61	1.25	0.94	0.74	0.55	0.45	0.34

【表4】 中学1年生 DMFTの年次推移

年度 地域	H16	H19	H22	H25	H28	R1	R4
岐阜市及び 岐阜市周辺	2.77	2.01	1.5	1.29	0.96	0.74	0.59
西濃地区	3.28	2.98	2.01	1.89	1.78	1.62	0.91
中濃地区	4.01	3.21	2.21	2.02	1.48	1.45	2.04
東濃地区	2.7	1.86	1.33	1.56	1.02	0.94	1.07
飛騨地区	3.33	3.04	2.39	2.19	1.56	1.00	1.02
岐阜県全体	3.15	2.33	1.81	1.63	1.24	1.03	0.94

【表5】 高校1年生 DMFTの年次推移

	男子 健全 者率	DMFT	女子 健全 者率	DMFT	合計 健全 者率	DMFT
岐阜市	88.06%	0.22	84.53%	0.32	86.34%	0.27
岐阜市周辺	85.79%	0.27	84.34%	0.34	85.07%	0.30
西濃地区	85.87%	0.32	83.99%	0.36	84.97%	0.34
中濃地区	84.69%	0.27	82.19%	0.33	83.48%	0.30
東濃地区	79.39%	0.45	75.66%	0.61	77.61%	0.53
飛騨地区	79.32%	0.37	79.83%	0.39	79.58%	0.38
特別支援学校	82.14%	0.70	78.46%	0.75	80.79%	0.72
私立	89.69%	0.18	87.60%	0.23	88.50%	0.21
岐阜県全体	84.64%	0.31	82.38%	0.38	83.53%	0.34

【表6】 地域別中学1年生 DMFT値

	男子 健全 者率	DMFT	女子 健全 者率	DMFT	合計 健全 者率	DMFT
岐阜市及び 周辺	80.86%	0.53	77.98%	0.65	79.45%	0.59
西濃地区	73.71%	0.76	65.56%	1.04	69.51%	0.91
中濃地区	63.42%	2.40	65.28%	1.63	64.29%	2.04
東濃地区	69.60%	0.99	64.35%	1.17	67.09%	1.07
飛騨地区	61.97%	0.98	65.46%	1.06	63.49%	1.02
特別支援学校	63.07%	1.11	61.07%	1.50	62.37%	1.25
私立	75.66%	0.52	68.15%	0.75	71.68%	0.64
岐阜県全体	73.42%	0.93	69.59%	0.95	71.50%	0.94

【表7】 地域別高校1年生 DMFT値

【顎関節の状態について】

学年が上がると要観察者（顎関節1）は、やや増加するが、要精査者（顎関節2）の数値はほとんど変わらない。全体的に平成22年度から大きな変化はないが、高校1年生で平成22年度より4%程で推移していた要観察者が、令和4年度は1.81%と減少がみられた。【表9】

関節の症状については、生徒の心身の状態（ストレス、歯並び、姿勢など）が複雑に絡んでおり、難しい問題である。

地域別では、過去同様、西濃・飛騨地区での要精査者が中学1年生で0%、高校1年生では、西濃地区が0.04%となっており、極めて低い。【表10・11】

【歯列・咬合の状態について】

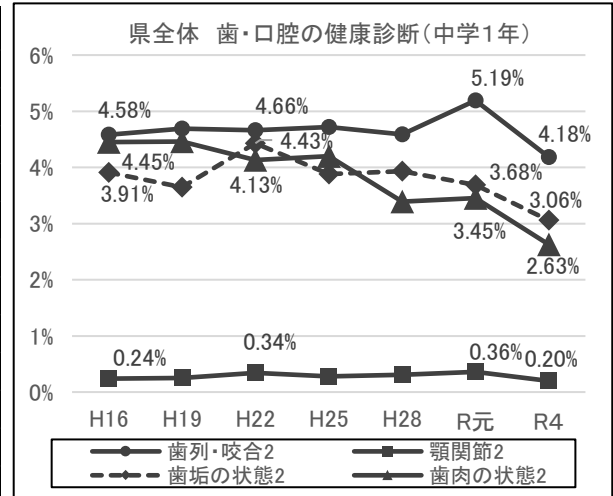
要観察者（歯列・咬合1）、要精査者（歯列・咬合2）については、中学1年生より高校1年生でともに数値が低くなっている。これらにより、高校1年生では、矯正治療中あるいは治療が終了したことによるものと推測される。また中学1年生の値を過去の調査と比較すると、要観察者が平成16年度の15.97%から緩やかに増加傾向を示している。しかし、同一母集団の比較として、令和元年度に中学1年生だった生徒が高校1年生となった令和4年度の要観察者、要精査者をみみると、どちらも低下している。【表8・9】

地域別では、中学1年生の岐阜市及び岐阜市周辺で要観察者の割合が高く、中濃・飛騨地区では低い。しかし、高校1年生では、岐阜市とその周辺地区で低下しており、これは矯正治療の結果と推測でき、矯正歯科専門医の分布に相関するのではないかと推察される。この結果は、平成25年度の結果と同様である。【表12・13】

歯列・咬合の状態は、顎関節及び歯垢・歯肉の状態との深い関連性があるので適切な指導が必要である。

中学1年	平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成25年度	平成28年度	令和元年度	令和4年度
歯列・咬合0	79.45%	77.60%	78.07%	77.85%	76.17%	74.14%	76.73%
顎関節0	98.46%	98.43%	97.41%	96.96%	94.88%	97.88%	98.12%
歯列・咬合1	15.97%	17.71%	17.27%	17.17%	18.24%	20.42%	19.08%
顎関節1	1.29%	1.32%	2.25%	2.04%	2.02%	1.76%	1.68%
歯列・咬合2	4.58%	4.69%	4.66%	4.72%	4.59%	5.19%	4.18%
顎関節2	0.24%	0.25%	0.34%	0.28%	0.31%	0.36%	0.20%
歯垢の状態0	74.60%	75.13%	72.49%	75.22%	72.76%	75.23%	76.68%
歯垢の状態1	21.49%	21.22%	23.09%	20.85%	22.15%	21.03%	20.26%
歯垢の状態2	3.91%	3.65%	4.43%	3.88%	3.93%	3.68%	3.06%
歯肉の状態0	75.27%	74.90%	74.63%	75.27%	75.44%	76.42%	78.95%
歯肉の状態1	20.28%	20.64%	21.24%	20.40%	19.93%	20.09%	18.43%
歯肉の状態2	4.45%	4.46%	4.13%	4.20%	3.39%	3.45%	2.63%

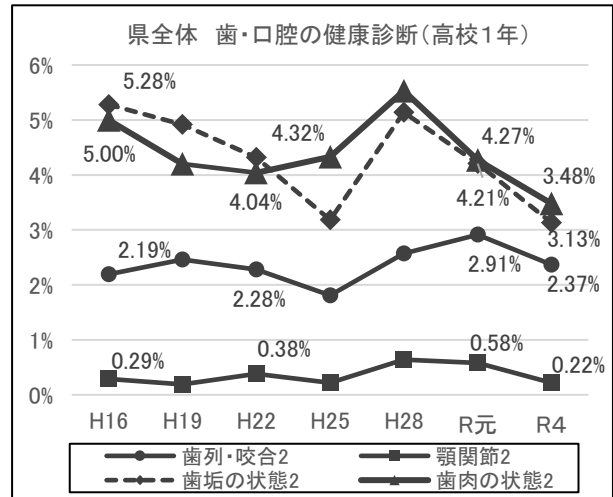
【表8】 中学1年生



歯・口腔の健康診断

高校1年	平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成25年度	平成28年度	令和元年度	令和4年度
歯列・咬合0	83.16%	83.25%	82.17%	82.88%	76.94%	80.12%	79.03%
顎関節0	97.00%	97.46%	95.40%	97.49%	91.57%	95.14%	97.97%
歯列・咬合1	14.65%	14.29%	15.55%	15.30%	16.23%	16.97%	18.59%
顎関節1	3.04%	2.35%	4.21%	2.30%	4.14%	4.28%	1.81%
歯列・咬合2	2.19%	2.46%	2.28%	1.81%	2.57%	2.91%	2.37%
顎関節2	0.29%	0.19%	0.38%	0.22%	0.64%	0.58%	0.22%
歯垢の状態0	73.43%	73.38%	75.62%	78.06%	69.58%	74.60%	74.30%
歯垢の状態1	21.29%	21.70%	20.06%	18.76%	22.04%	21.53%	22.56%
歯垢の状態2	5.28%	4.92%	4.32%	3.18%	5.14%	4.21%	3.13%
歯肉の状態0	76.00%	77.14%	77.15%	80.35%	71.06%	76.70%	77.73%
歯肉の状態1	19.01%	18.66%	18.81%	15.32%	20.04%	19.09%	18.79%
歯肉の状態2	5.00%	4.20%	4.04%	4.33%	5.53%	4.27%	3.48%

【表9】 高校1年生



歯・口腔の健康診断

	男子		女子		合計	
県全体	0	98.03%	0	98.21%	0	98.12%
	1	1.76%	1	1.60%	1	1.68%
	2	0.21%	2	0.19%	2	0.20%
岐阜市	0	97.45%	0	97.03%	0	97.24%
	1	1.85%	1	2.36%	1	2.10%
	2	0.70%	2	0.61%	2	0.66%
岐阜市周辺	0	96.46%	0	98.38%	0	97.42%
	1	3.42%	1	1.44%	1	2.44%
	2	0.11%	2	0.17%	2	0.14%
西濃	0	99.43%	0	99.79%	0	99.61%
	1	0.57%	1	0.21%	1	0.39%
	2	0.00%	2	0.00%	2	0.00%
中濃	0	99.27%	0	99.00%	0	99.14%
	1	0.67%	1	0.94%	1	0.80%
	2	0.05%	2	0.06%	2	0.05%
東濃	0	97.83%	0	96.79%	0	97.33%
	1	2.02%	1	2.96%	1	2.47%
	2	0.15%	2	0.25%	2	0.20%
飛騨	0	99.32%	0	98.18%	0	98.74%
	1	0.68%	1	1.82%	1	1.26%
	2	0.00%	2	0.00%	2	0.00%
特別支援	0	91.74%	0	98.31%	0	94.05%
	1	6.42%	1	1.69%	1	4.76%
	2	1.83%	2	0.00%	2	1.19%
私立	0	94.33%	0	96.12%	0	95.35%
	1	5.15%	1	3.88%	1	4.42%
	2	0.52%	2	0.00%	2	0.22%

【表10】 中学1年生 顎関節の状態

	男子		女子		合計	
県全体	0	98.50%	0	97.43%	0	97.97%
	1	1.36%	1	2.27%	1	1.81%
	2	0.15%	2	0.30%	2	0.22%
岐阜市及び周辺	0	98.36%	0	97.53%	0	97.96%
	1	1.48%	1	2.35%	1	1.91%
	2	0.15%	2	0.12%	2	0.14%
西濃	0	98.97%	0	98.54%	0	98.75%
	1	0.95%	1	1.46%	1	1.21%
	2	0.09%	2	0.00%	2	0.04%
中濃	0	98.54%	0	97.14%	0	97.88%
	1	1.46%	1	2.69%	1	2.03%
	2	0.00%	2	0.17%	2	0.08%
東濃	0	98.36%	0	94.96%	0	96.74%
	1	1.64%	1	4.15%	1	2.84%
	2	0.00%	2	0.90%	2	0.43%
飛騨	0	98.43%	0	97.79%	0	98.10%
	1	1.57%	1	2.01%	1	1.80%
	2	0.00%	2	0.20%	2	0.11%
特別支援	0	97.50%	0	98.47%	0	97.84%
	1	1.67%	1	1.53%	1	1.62%
	2	0.83%	2	0.00%	2	0.54%
私立	0	98.56%	0	97.71%	0	98.11%
	1	1.14%	1	1.76%	1	1.47%
	2	0.30%	2	0.53%	2	0.42%

【表11】 高校1年生 顎関節の状態

※顎関節の判定基準

0:異常なし

1:(要観察)開閉口時に、下顎の偏位や雑音(カクカク、ミリミリなど)が認められる

2:(要精検)開閉口時以外でも顎関節や咀嚼筋に痛みがある。または2横指以下の開口障害がある

	男子		女子		合計	
県全体	0	77.05%	0	76.39%	0	76.73%
	1	18.76%	1	19.43%	1	19.08%
	2	4.19%	2	4.18%	2	4.18%
岐阜市	0	69.99%	0	72.36%	0	71.14%
	1	22.48%	1	21.62%	1	22.06%
	2	7.54%	2	6.01%	2	6.80%
岐阜市周辺	0	74.89%	0	72.44%	0	73.67%
	1	20.72%	1	22.24%	1	21.48%
	2	4.39%	2	5.31%	2	4.85%
西濃	0	75.16%	0	73.53%	0	74.38%
	1	20.53%	1	22.16%	1	21.32%
	2	4.31%	2	4.31%	2	4.31%
中濃	0	84.28%	0	84.58%	0	84.43%
	1	13.02%	1	12.76%	1	12.89%
	2	2.70%	2	2.66%	2	2.68%
東濃	0	74.51%	0	73.60%	0	74.08%
	1	21.66%	1	22.20%	1	21.92%
	2	3.82%	2	4.19%	2	4.00%
飛騨	0	86.01%	0	83.25%	0	84.61%
	1	12.12%	1	15.09%	1	13.62%
	2	1.88%	2	1.66%	2	1.77%
特別支援	0	81.65%	0	66.10%	0	76.19%
	1	17.43%	1	30.51%	1	22.02%
	2	0.92%	2	3.39%	2	1.79%
私立	0	85.05%	0	84.50%	0	84.73%
	1	14.43%	1	13.57%	1	13.94%
	2	0.52%	2	1.94%	2	1.33%

【表12】 中学1年生 歯列・咬合の状態

	男子		女子		合計	
県全体	0	79.78%	0	78.28%	0	79.03%
	1	17.85%	1	19.35%	1	18.59%
	2	2.37%	2	2.37%	2	2.37%
岐阜市及び周辺	0	83.60%	0	82.65%	0	83.14%
	1	14.19%	1	15.68%	1	14.92%
	2	2.21%	2	1.68%	2	1.95%
西濃	0	76.90%	0	72.45%	0	74.60%
	1	20.69%	1	24.64%	1	22.72%
	2	2.41%	2	2.92%	2	2.67%
中濃	0	69.40%	0	72.96%	0	71.07%
	1	27.30%	1	24.00%	1	25.75%
	2	3.30%	2	3.03%	2	3.17%
東濃	0	84.34%	0	80.04%	0	82.29%
	1	14.74%	1	17.83%	1	16.21%
	2	0.92%	2	2.13%	2	1.50%
飛騨	0	75.62%	0	78.31%	0	77.04%
	1	19.46%	1	19.68%	1	19.58%
	2	4.92%	2	2.01%	2	3.39%
特別支援	0	77.50%	0	67.18%	0	73.85%
	1	18.33%	1	23.66%	1	20.22%
	2	4.17%	2	9.16%	2	5.93%
私立	0	82.15%	0	79.28%	0	80.63%
	1	15.96%	1	18.43%	1	17.27%
	2	1.88%	2	2.29%	2	2.10%

【表13】 高校1年生 歯列・咬合の状態

※歯列咬合の判定基準

0:異常なし

1:(要観察)継続的な観察を要する軽度の不正咬合を認める

2:(要精検)かなり重度な不正咬合があり精密検査が必要とされる状態

【歯垢の状態について】

今年度の調査で、かなり汚れのある者の率が中学1年生、高校1年生ともに過去最小値となっており、徐々に減少傾向がみられる。しかし、高校1年生の軽度の汚れのある者については、増減を繰り返しており、大きな変化はない。【表8・9】

また、中学1年生と高校1年生で比較してみると、全体的にあまり大きな差はみられないが、岐阜市及び周辺地区では、中学1年生の方が高く、それ以外は高校1年生の方が高い傾向である。【表14・15】

前回調査と同様に、後術する歯肉炎についても同様の結果がみられることから、歯肉炎発症の原因ともなる歯垢の付着率を低下させることが、歯肉炎所有者率の低下につながることは明らかである。今後も歯垢の除去が、歯肉炎の改善となることを踏まえたブラッシング指導が必要である。

	男子		女子		合計	
	0	1	0	1	0	1
県全体	0	73.30%	0	80.24%	0	76.68%
	1	22.84%	1	17.56%	1	20.26%
	2	3.87%	2	2.21%	2	3.06%
岐阜市	0	67.11%	0	72.97%	0	69.96%
	1	28.22%	1	23.92%	1	26.13%
	2	4.66%	2	3.11%	2	3.91%
岐阜市周辺	0	66.84%	0	75.79%	0	71.29%
	1	29.34%	1	22.01%	1	25.70%
	2	3.82%	2	2.20%	2	3.01%
西濃	0	79.97%	0	87.00%	0	83.36%
	1	18.25%	1	12.31%	1	15.39%
	2	1.77%	2	0.68%	2	1.25%
中濃	0	82.11%	0	87.63%	0	84.78%
	1	15.15%	1	11.26%	1	13.27%
	2	2.75%	2	1.11%	2	1.96%
東濃	0	68.14%	0	76.40%	0	72.08%
	1	25.04%	1	19.90%	1	22.59%
	2	6.82%	2	3.70%	2	5.33%
飛騨	0	76.28%	0	80.10%	0	78.22%
	1	19.80%	1	16.42%	1	18.08%
	2	3.92%	2	3.48%	2	3.70%
特別支援	0	66.06%	0	59.32%	0	63.69%
	1	25.69%	1	30.51%	1	27.38%
	2	8.26%	2	10.17%	2	8.93%
私立	0	70.10%	0	84.88%	0	78.54%
	1	26.80%	1	13.57%	1	19.25%
	2	3.09%	2	1.55%	2	2.21%

【表14】 中学1年生 歯垢の状態

	男子		女子		合計	
	0	1	0	1	0	1
県全体	0	70.32%	0	78.33%	0	74.30%
	1	25.73%	1	19.37%	1	22.56%
	2	3.96%	2	2.30%	2	3.13%
岐阜市及び周辺	0	77.44%	0	86.00%	0	81.62%
	1	19.25%	1	12.45%	1	15.93%
	2	3.31%	2	1.56%	2	2.45%
西濃	0	72.50%	0	70.91%	0	71.68%
	1	23.71%	1	24.80%	1	24.27%
	2	3.79%	2	4.29%	2	4.05%
中濃	0	61.81%	0	76.08%	0	68.51%
	1	34.13%	1	21.75%	1	28.32%
	2	4.06%	2	2.17%	2	3.17%
東濃	0	70.93%	0	78.36%	0	74.48%
	1	25.90%	1	19.96%	1	23.06%
	2	3.17%	2	1.68%	2	2.46%
飛騨	0	73.15%	0	78.31%	0	75.87%
	1	18.34%	1	17.47%	1	17.88%
	2	8.50%	2	4.22%	2	6.24%
特別支援	0	52.92%	0	65.65%	0	57.41%
	1	37.50%	1	24.43%	1	32.88%
	2	9.58%	2	9.92%	2	9.70%
私立	0	66.44%	0	75.76%	0	71.38%
	1	30.04%	1	22.75%	1	26.18%
	2	3.52%	2	1.50%	2	2.45%

【表15】 高校1年生 歯垢の状態

※歯垢の診査の判定基準

- 0: (良好)ほとんどの歯垢の付着を認めない
- 1: (若干の付着)歯面の 1/3 以下に歯垢の付着が認められ、刷牙指導を要する
- 2: (相当の付着)歯面の 1/3 を越えて歯垢の付着が認められ、刷牙指導や場合によっては健康相談を行う必要がある

【歯肉の状態について】

「第3次ヘルスプランぎふ21」において、「12歳児で歯肉に炎症所見のある児童の減少」の目標値が20%以下となっている。今年度、県全体で歯肉炎所有者率（歯肉の状態1と2の合算）が、中学1年生では21.06%と目標値20%以下を下回ることが出来なかった。また高校1年生では22.27%であった。【表16・17】

しかし、過去の調査と比較すると、中学1年生では、減少傾向である。高校1年生では、H28年に一度増加したが、その後減少傾向がみられる。【表8・9】

同一母集団の比較として、令和元年度に中学1年生だった生徒が高校1年生となった令和4年度をみると、23.54%から22.27%とやや減少がみられるが、あまり大きな変化はみられなかった。【表8・9】

地域別では、H28年度から中学1年生では中濃地区が少ない。高校1年生では岐阜市及び岐阜市周辺、飛騨地区で変わらず少なかったが、他の地域ではやや多い。また男女で比較すると女子のほうが男子よりやや少ない（女子の方がやや状態が良い）傾向がみられた。【表16・17】

歯肉炎は、成人期になると歯周炎に移行することが少なくなく、40代50代以降進行した歯周病により、多くの日本人が歯を失っている状況を考えると、高校生の世代の歯肉炎罹患率を減少させることが重要である。

「第3次ヘルスプランぎふ21」の目標値に向けて減少傾向がみられることはよい傾向であるが、今後の歯科保健活動においても「歯肉」をターゲットとして、さらなる歯肉炎の減少に向けた指導の継続が必要である。

しかし、学校の教育活動の中では歯科保健活動ばかりにあまり時間をかけられない実情もあることから、小学校で学んできた歯科保健に関わる知識や身に付いた習慣が、中学・高校と年齢が上がるにつれて忘れ去られつつあるのではないかと思われる。また、中学校の保健体育の教科書に歯科に関する内容の記載がないことも、その要因の一つと推測できる。小学校での更なる歯科保健活動の充実とともに、中学校・高校までの継続的な取組が課題である。

また、高校や高等部での歯科健康診断や歯科保健指導は、集団で実施する最後の機会となる場合もあるため、健康診断を通して自分の歯・口の状態を把握し、主体的に自分の歯・口の健康を維持し、一生自分の歯で生きていくための力を培っていくことが重要である。

さらに、令和元年度より新型コロナウイルス感染症の感染予防のためのマスク生活による口呼吸も歯肉炎に悪影響が出るとと思われるため、今後の歯科保健活動の充実が期待される。

	男子		女子		合計	
	0	75.90%	0	82.14%	0	78.95%
県全体	1	20.73%	1	16.01%	1	18.43%
	2	3.37%	2	1.85%	2	2.63%
	0	70.69%	0	75.00%	0	72.78%
岐阜市	1	24.39%	1	22.16%	1	23.31%
	2	4.92%	2	2.84%	2	3.91%
	0	70.49%	0	75.79%	0	73.13%
岐阜市 周辺	1	25.91%	1	21.72%	1	23.83%
	2	3.60%	2	2.48%	2	3.04%
	0	81.31%	0	87.82%	0	84.44%
西濃	1	17.74%	1	11.70%	1	14.84%
	2	0.95%	2	0.48%	2	0.72%
	0	85.48%	0	90.63%	0	87.97%
中濃	1	11.77%	1	8.32%	1	10.10%
	2	2.75%	2	1.05%	2	1.93%
	0	68.14%	0	79.44%	0	73.53%
東濃	1	27.14%	1	17.93%	1	22.75%
	2	4.72%	2	2.63%	2	3.73%
	0	79.18%	0	83.58%	0	81.41%
飛騨	1	17.06%	1	15.26%	1	16.15%
	2	3.75%	2	1.16%	2	2.44%
	0	70.64%	0	67.80%	0	69.64%
特別 支援	1	22.94%	1	20.34%	1	22.02%
	2	6.42%	2	11.86%	2	8.33%
	0	74.23%	0	86.82%	0	81.42%
私立	1	23.20%	1	12.40%	1	17.04%
	2	2.58%	2	0.78%	2	1.55%

【表16】 中学1年生 歯肉の状態

	男子		女子		合計	
	0	74.20%	0	81.29%	0	77.73%
県全体	1	21.68%	1	15.87%	1	18.79%
	2	4.11%	2	2.84%	2	3.48%
	0	79.22%	0	86.72%	0	82.88%
岐阜市及 び周辺	1	16.74%	1	10.45%	1	13.67%
	2	4.03%	2	2.83%	2	3.45%
	0	76.12%	0	74.55%	0	75.31%
西濃	1	20.95%	1	21.64%	1	21.30%
	2	2.93%	2	3.81%	2	3.38%
	0	69.17%	0	78.51%	0	73.56%
中濃	1	26.15%	1	18.89%	1	22.74%
	2	4.68%	2	2.60%	2	3.70%
	0	71.03%	0	78.48%	0	74.59%
東濃	1	25.59%	1	19.73%	1	22.79%
	2	3.38%	2	1.79%	2	2.62%
	0	78.75%	0	81.33%	0	80.11%
飛騨	1	15.44%	1	14.86%	1	15.13%
	2	5.82%	2	3.82%	2	4.76%
	0	59.17%	0	67.94%	0	62.26%
特別 支援	1	28.75%	1	21.37%	1	26.15%
	2	12.08%	2	10.69%	2	11.59%
	0	72.14%	0	82.23%	0	77.48%
私立	1	24.29%	1	15.57%	1	19.67%
	2	3.57%	2	2.20%	2	2.84%

【表17】 高校1年生 歯肉の状態

※歯肉の診査の判定基準

0:異常なし

1:(要観察 G0)歯肉に軽度の炎症が認められるが歯石沈着は認められず定期的な観察が必要

2:(要精検 G)精密検査や診断、治療が必要な歯周疾患が認められる

5 おわりに

第8回目の実態調査を実施するにあたり、関係学校の先生方にはお忙しい中ご協力をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで貴重な資料ができ、今後の活動に多に役立つものと考えております。

歯・口の健康づくりの推進のためには、口腔衛生委員会単独では限界があり、他委員会またはその他関係諸組織との連携も必要と考えます。今回ご協力いただきました先生方に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも口腔衛生委員会の活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。